



みやま文庫

会 報

No. 24

50. 4. 1

回 顧

古 屋 栄 吉

みやま文庫が創立十五周年と聞き、年月の早いことに驚ろきました。

みやま文庫の創立には萩原さん、吹山さん、友重さん等に熱心でした。小生当時県議会図書室運営委員長なるが故仲間入りし、皆さんの熱意に動かされ発起人会にも顔を出し、創立総会には座長等勤めさせられました。

しかし皆さんのご努力が実って、この成果は全国的にも名声高く、前途洋々たる感激の至りです。今後一層の発展を祈念して止みません。

第一巻「赤城」を出すための資金調達を東武にお願ひし苦勞した経緯、先輩各位並びに東武の福島さんのお骨折

りで二〇万円補助金を戴いた時はホッと敬意と感謝を捧げました。第二巻「利根と上州」の場合は、落合土木部長に特別のお骨折りをいただき、二〇万円の補助金を得た時は、何か資金的に前途に明るさを持ちました。

ただし第七巻「橋名と伊香保」では失敗いたしました。伊香保町関係は田村達氏(当時県立図書館長)のお骨折りでどうにかになりましたが、群バスでは約束した重役が転任したとか、交渉相手が變つたとか小生との約束はホゴ、三代にわたり図書館長が努力されましたが結局果たず資金調達のみならずかたじけなさを痛感させられました。

しかし関係各位のご努力は種々の難関を突破し、今の盛況を見、また会員の延びには驚ろきました。当初の一、〇〇〇人から三、二〇〇人となり、最初小中学校、高校を会員に入ってもらうのに骨が折れたのに、熱意とこれに伴う質の問題もありました。『近代群馬の人々』では小生も役あずかって汗顔の至り、「群馬の短歌集」にははからずも名が出て何かコンパニイ感。『赤城』発刊のお蔭で有料道路、赤城神社運営も促進され、『国立青年の家』の誘致にも役立ちました。

特別出版「三山一水」を知事の交際用に進言したのも思い出の一つです。県議二十年に終止符を打つに当り思い出多いみやま文庫です。『温古知新』新しいよき群馬の文化を生み育てて下さい。

(監事 初代運営委員長)

● みやま文庫原稿募集について

当文庫に於ては毎年みやま文庫の原稿を懸賞募集してきましたが本年も引きつづき、次の規定により実施いたします。就きましては奮って多数ご応募下さいますようお願い申し上げます。

第六回みやま文庫懸賞原稿募集

◎応募規定

- (一) 応募原稿
 - (1) 郷土群馬に関する未発表の著作(みやま文庫に向くもの)
 - (2) 内容は高等学校卒業程度の学力で理解できるもの。当用漢字新かなづかいを原則とする。
 - (3) 執筆は個人でもグループでもよい。
- (二) 応募資格 みやま文庫会員(応募の際入会可)
- (三) 締切り期日 昭和50年9月30日
- (四) 宛 先

〒371 前橋市城東町2の3 群馬県立図書館内

みやま文庫事務局

電話 前橋 31-3008

賞 入 賞 みやま文庫賞 一編 賞金六万円

(みやま文庫として刊行する)

佳作 若干名 賞金各一万円

(みやま文庫として刊行することもある)

ある)

(六) 枚 数 400字詰原稿用紙(300枚~350枚)

(七) 考 選 みやま文庫賞選考委員会

(八) その他

入賞作品を刊行する場合は編集委員会が加除訂正を求めることもある。

前橋市城東町二丁目三の三
群馬県立図書館内

みやま文庫事務局

電話 前橋三二局三〇〇八番
振替 東京 一四三五九番

◆ 昭和50年度予算について

下記予算ごらんの上下了承下さいますようお願いします。

昭和50年度予算

収入

科目	目	予算額	摘	要
会費		7,260円	会員会費 3,300人分	
補助金		650	県費補助金	
寄附金		10		
雑収入		376	送料、既刊図書分売代等	
計		8,296		

支出

科目	目	予算額	摘	要
人件費		1,168円	職員給与費、旅費	
会議費		50	理事会、企画会議、幹事会費	
原稿料		280	原稿料	
編集費		120	資料調査費、編集諸費	
印刷費		5,880	文庫図書印刷費	
発送費		438	郵便料、配本諸費	
事務費		120	事務局事務費	
諸費		240	会費振替払込料負担、普及諸費	
計		8,296		

収支差引額 0円

◆ 事務局より

- 住所、勤務場所が変った時は成るべく早くご連絡下さい。
- 会費は前納をたてまえますので（毎年6月末までに）よろしくお願ひ申し上げます。
- 退会なさる場合は必ずご連絡下さい。連絡のない場合は継続下さるものとして処理しますのでご了承下さい。

十五年目を迎えた事務局

関 俊 治

みやま文庫も、ことし（昭和50年）で十五年になる。そして本年度の刊行計画の第三冊は、ちょうど六十号ということになる。十五周年に六十冊、すなわち一年に四冊ずつ順調に会員の手もとに本をお届けすることができたわけである。もっともその間にいろいろ曲折もあった。とくに刊行計画どおりに執筆や印刷がはかどらなかつたりで、事務局の気をもませることはよくあった。それでもこうやって十五年をふり返ってみて、四冊ずつというペースが狂わなかったことを、有難く感謝したい気持ちで一杯である。

さて、十五周年といっても特別の行事は予定されないが、かつて『赤城』『利根と上州』『榛名と伊香保』『奇岩の山・妙義』以上四冊を一般からの要望にこたえて復刻し、『三山一水』というセットを販布したことがあった。十五周年記念事業として、かねてから復刊の希望の多い「街道シリーズ」（四冊）を、前例にならって復刻しようという計画がすすめられている。詳細については、あらためてお知らせするはずである。

十五年たつて、事務局にも若干の異動があった。とくに、会員の期待にこたえるため、編集、刊行、配本、会計経理等の面で奮闘している事務局のスタッフについて、ここで御紹介しておきたい。

幹事 小平 房雄 氏

全 大塚 利市 氏（常勤）

全 難波 直次郎 氏（兼務）

小平氏は昭和四十七年三月まで県立図書館次長の職にあって、かたわらみやま文庫の企画と経理をずっと担当してきた。いわば文庫の主ともいふべき人。現在は非常勤だが、企画、編集、経理を担当している。

大塚氏は、県社教主事、青年の家所長、学校長を歴任し、退職後「群馬県百年史」の編さん事務局で事務を専任した実績をもつ。みやま文庫創設からの専任者だった金井二郎氏の後任として昭和四九年春から、文庫の出版、配本、会員関係の事務を担当している。

難波氏は県立図書館次長として文庫の運営全般について協力や助言をしていただいている。

これらの事務局スタッフの並々ならぬ努力が、みやま文庫の大きな推進力となっていることを、ここにあらためて御紹介した次第である。

（みやま文庫事務局長、県立図書館長）

◆ 昭和五十年刊行予定図書名

上州の路 傍丸山知良 執筆

明治大正の文学 根岸謙之助 執筆

群馬県営業便覧 復刻（二巻又は一巻で）

本会十五周年記念出版上有料で希望者に――

既刊の街道に関する四巻を再版の予定
決定次第お知らせ致します。